

地域の防災

Regional Disaster Prevention Planning

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

中野 晋・教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 蔣 景彩・准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

田村 隆雄・准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】 各種の自然災害の防御・軽減と災害時の危機管理に向けた地域防災計画の合理化に必要な基礎知識を習得させる。

【授業概要】 学期前半は、①地震、②地盤、③土石流・泥流、④洪水・内水氾濫、⑤津波・高潮の災害について、過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生機構を解説するとともに、防災対策の基本事項を解説する。学期後半は、地域防災計画の沿革と現状を述べたあと、実効性のある計画策定を行う際に持つべき視点と留意点を解説する。

【キーワード】 自然災害, 地域防災計画, 被災者救済, 自主防災支援

【先行科目】 『沿岸域工学』(0.1)

【関連科目】 『建設の歴史とくらし』(0.5), 『耐震工学』(0.5), 『河川工学』(0.5), 『地盤工学』(0.5), 『地震工学』(0.5), 『建設の法規』(0.5), 『水の力学2』(0.5)

【受講要件】 なし

【履修上の注意】 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

【到達目標】

1. 種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する。
2. 地域防災計画の現状と計画策定上の要点を理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス, 最近の災害から
2. 地震・津波災害の実態
3. 南海地震と防災対策
4. グループワーク・南海地震について考える
5. 土砂災害の実態
6. 土砂災害と防災対策
7. グループワーク・土砂災害について考える
8. 洪水災害の実態
9. 洪水災害と防災対策
10. グループワーク・洪水災害について考える
11. 防災の法規
12. 防災基本計画
13. 応急対応・復旧・復興対策

14. 減災 (自主防災)

15. 減災 (企業防災)

16. 期末試験

【成績評価】 到達目標 1 の達成度を、前半のグループ発表会の評点と後半試験の関連部分の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標 2 の達成度を後半試験の関連部分の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。2 項目の到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、各到達目標の評点の重みをそれぞれ 65% および 35% として算出する。

【対象学生】 他学部, 他大学学生も履修可能

【教科書】 なし

【参考書】 京都大学防災研究所編「防災計画論」, 平成 22 年度版・防災士教本など

【WEB 頁】 <http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0053>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216122>

【連絡先】

⇒ 中野 (A310, 088-656-7330, nakano@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示板を参照のこと。)

⇒ 蔣 (A311, 088-656-7346, jiang@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

⇒ 田村 (A414, 088-656-9407, tamura@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

【備考】 分担方法は第 1 回講義で提示する。

Regional Disaster Prevention Planning

2 units (selection) 2nd-year(2nd semester)

Susumu Nakano · PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Jing-Cai Jiang · ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE, Takao TAMURA · ASSOCIATE PROFESSOR / INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND SCIENCE

Target) 各種の自然災害の防御・軽減と災害時の危機管理に向けた地域防災計画の合理化に必要な基礎知識を習得させる。

Outline) 学期前半は、①地震、②地盤、③土石流・泥流、④洪水・内水氾濫、⑤津波・高潮の災害について、過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生機構を解説するとともに、防災対策の基本事項を解説する。学期後半は、地域防災計画の沿革と現状を述べたあと、実効性のある計画策定を行う際に持つべき視点と留意点を解説する。

Keyword) 自然災害, 地域防災計画, 被災者救済, 自主防災支援

Fundamental Lecture) “Coastal Zone Engineering”(0.1)

Relational Lecture) “History of Civil Works and Human Living”(0.5), “Earthquake Engineering”(0.5), “River Engineering”(0.5), “Geotechnical Engineering”(0.5), “Earthquake Engineering”(0.5), “Administration of Public Works”(0.5), “Hydraulics (2)”(0.5)

Requirement) なし

Notice) 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

Goal)

1. 種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する。
2. 地域防災計画の現状と計画策定上の要点を理解する。

Schedule)

1. ガイダンス, 最近の災害から
2. 地震・津波災害の実態
3. 南海地震と防災対策
4. グループワーク・南海地震について考える
5. 土砂災害の実態
6. 土砂災害と防災対策
7. グループワーク・土砂災害について考える
8. 洪水災害の実態
9. 洪水災害と防災対策
10. グループワーク・洪水災害について考える
11. 防災の法規
12. 防災基本計画

13. 応急対応・復旧・復興対策

14. 減災(自主防災)

15. 減災(企業防災)

16. 期末試験

Evaluation Criteria) 到達目標1の達成度を、前半のグループ発表会の評点と後半試験の関連部分の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標2の達成度を後半試験の関連部分の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。2項目の到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、各到達目標の評点の重みをそれぞれ65%および35%として算出する。

Student) Able to be taken by student of other faculty and university

Textbook) なし

Reference) 京都大学防災研究所編「防災計画論」, 平成22年度版・防災士教本など

Webpage) <http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0053>

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216122>

Contact)

⇒ Nakano (A310, +81-88-656-7330, nakano@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: オフィスアワー:年度ごとに学科の掲示板を参照のこと。)

⇒ Jiang (A311, +81-88-656-7346, jiang@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

⇒ TAMURA (A414, +81-88-656-9407, tamura@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

Note) 分担方法は第1回講義で提示する。